

新型たばこについて

～興味のある方、既に使っておられる方に知ってほしいこと～

2018/5

京都保健会 ふくちやま協立診療所

寺本 敬一

新型たばこについての誤解



「煙がでないので、禁煙エリアでも吸える」
「受動喫煙の心配がない」
「普通のたばこよりも悪影響は少ない」

しかし、

非燃焼・加熱式タバコや電子タバコに対する日本呼吸器学会の見解



- 1 **健康に悪影響**がもたらされる可能性があります
- 2 新型タバコ（非燃焼・加熱式タバコや電子タバコ）の使用者が呼出したエアロゾルは周囲に拡散するため、**受動吸引による健康被害**が生じる可能性があります。従来のたばこと同様に全ての飲食店、バーを含む公共の場所、公共交通機関での使用は認められない

世界保健機構の報告書（2016）

- ① 喫煙より害は少ないかもしれないが、**未解明**
- ② 禁煙に役立つかどうかは相反する研究あり、未解明
- ③ タバコ産業は、**タバコ消費量の減少を食い止めるために**電子タバコを利用する意図あり
- ④ 「禁煙と受動喫煙防止に貢献する」という口実で、電子タバコの販売を企業の社会貢献責任の一環として進めている
- ⑤ 電子タバコのエアロゾルへの暴露と発火爆発事故防止のため**禁煙エリアでの使用を禁止すべき**

新型タバコ（非燃焼・加熱式タバコや電子タバコ）とは

電子タバコ（E-cigarettes）

液体を加熱してエアロゾルを発生させて吸引

ニコチンなし（VAPE）

ニコチンあり 日本では販売禁止



非燃焼・加熱式タバコ（Heat-not-burn tobacco）

葉タバコを直接加熱してエアロゾルを吸引（商品名 iQOS, glo）

低温で霧化する有機溶剤からエアロゾルを発生させ、たばこ粉末を通過させて、タバコ成分を吸引（商品名 Ploom TECH）



開発されてから、まだ日が浅く、健康への影響がどのくらいあるのかについては、科学的な断定をすることは出来ない。

メリット

- タール削減
- タバコ特異的ニトロソアミン削減
- 煙がでない

デメリット

- ニコチンは含まれている製品あり。その他の有害物質（重金属（ニッケル、クロム）はむしろ多い）あり
- 大量であってもエアロゾルは見えにくい。
- 喫煙に繋がりやすい

14—30歳の方が、電子タバコを使用していた場合、

将来タバコを吸う人が 31%

電子タバコ使用無しの方がタバコを吸う 8%

⇒ 今後どのような健康被害が出るか現時点で不明、喫煙、再喫煙にも繋がりやすい可能性あり、

お金の無駄にならぬよう、たばこ産業の思う壺にはまらないよう、たばこ同様、新型たばこもしないほうがよいです！！

参考）非燃焼・加熱式タバコや電子タバコに対する日本呼吸器学会の見解
世界保健機構による報告書（2016）